

今日は、初舞台「リア王」にむけてのボイストレーニングの日。最初は、ボイトリングって大きな声を出せるように腹筋を鍛えたり、滑舌をよくする訓練をするものだ。と漠然と考えていたけれど、私が教わっている先生のトレーニングは全く違って、自分の心や体と向き合い、精神と肉体を一致させて、本当の感情を言葉に乗せていくもの。自分の心に嘘をついて、うわべで言葉を出すと自分でも違和感があり、すぐにばれてしまう。レッスン数回目で、いきなり大きな声や、自分でも知らなかった声が出るようになり、自分の中にこんな声があったんだ!と発見してワクワクしている。

その後、以前から観たかった蜷川幸雄さんの舞台「オセロー」を観劇。

舞台は、登場人物全てをいろいろな視点から客観的に観ることが出来るのが魅力だけれど、特に蜷川さんの舞台は、キャラクター一人一人が強い存在感を持ち、バックボーンが感じられて、それぞれの人物に感情移入してしまった。

吉田鋼太郎さんのオセローは、雄々しく、立派で本当にかっこよくて、だからこそ、そんな破がどんどん崩れていく落差が凄だっている。蒼井優さんのデズデモナは、「隣で美しく、無垢な心がストーリーに伝わってくる。二人の結末は悲劇的なものだったけれど、自分を壊さざるを得ないほどに深く人を愛したオセローと、オセローの急変に戸惑いと深い哀しみを感じながらも、最後まで破を許し、愛と信念を貫き通したデズデモナの人生は、ある意味、とても幸せだったのではというやましくも感じた。私が今度演じる「リア王」のコーディアアの無垢さ、信念を貫き通す強さはデズデモナと重なる部分がある。自分が舞台に立って、どうなっていくのか、どこまでいけるのか、緊張感とともにますます期待と楽しみがふくらんで、本当に観てよかったと実感した。

私も、自分の感情と肉体と一致させ、嘘ではない自分をお客さんに届けられたら!そして、毎日同じ舞台で、同じ人生を何度も生きていることができる役者の喜びをとことん味わいたい。お客さんと一体になって、舞台の空間を生きたいと強く強く感じた一日。

Artist Diary

ボイトレの日 10月4日木曜日

文＝内山理名

イラスト＝竹井千佳

